

株式会社 AB.do (業種：建設コンサルタント、情報処理サービス)

URL :<http://www.ab-do.jp/>



企業概要		事業概要	企業理念
資本金	30,000千円	公官庁及び民間の調査・測量・設計 情報通信システム開発	新たな未来、豊かな社会をつくる。
従業員数	45名		
代表者	小平 つな子		

取組概要

【取組テーマ】

音声入力システムとAI（生成AI及びローカルAI）による技術職スキルを形式知化することによる産業DX

【対象の領域】

既存業務（公官庁の調査・測量・設計）、新規業務（産学共同研究）、情報通信システム

【取組内容】

弊社の技術に特化したAIシステムの開発

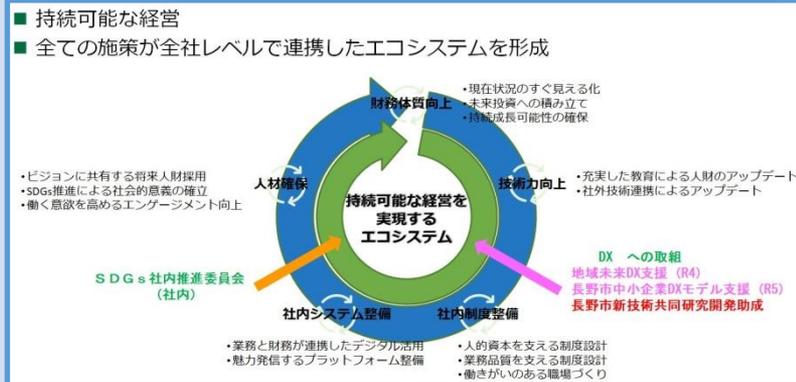
【取組内容のポイント】

「技術を学びたい社員が、弊社独自のAIに質問すると最適な答えが返ってくる」という状態にして、「技術職スキルの伝承」の方法を変化(X)させる

【DX推進計画】

- 経営上ありたい姿（理想）と現状のずれ
理想：既存業務の社内基盤と新規事業創生を同時進行するシステムが必要、組織運営やベースとなる人材のアップデートを可能にしていく
現状：専門技術の暗黙知・経験知・ノウハウなどの形式化が不足
- 解決策
テーマに記載したシステム導入の企画・要件検討、開発テスト及びトライアルの実施
- 成果
開発したAIシステムを業務で実用、学習材料となる技術データの蓄積を開始（今後継続）

DX推進による成果（または、目指す姿）



わが社のDXのポイント (ご自由に)

【DXを進める上での苦労や行った工夫】

- ・機密情報は切り分け、ChatGPTなどの社外のAIシステムとの連動も可能となるよう工夫した
- ・開発したシステムは、活用による成長するため、「使いたくなる仕掛け」としてを付加する工夫を行った
- ・学習データ作成とその省力化のために、簡易的なチャットボットを開発・活用する工夫を行った
- ・マシンスペックの低さが制約となって苦戦、柔軟に方針を転換し、現状のPCでも実用性のある速度を得た

【DXを進めたことによる具体的な変化】

- ・既存業務のデジタル化基盤を安定化は評価できるが、**KPI**を設定できる段階には至っていない
- ・AI関連やITについての話題や実務でのトライアルが増えた
- ・既存業務において、IT活用に積極的な人材が以前より増えた
- ・属人化された技術や業務はまだまだあるものの、従前と比較してマルチスキル化が促された
- ・技術継承のルート(誰から誰へ)が分かるため、お礼など、直接的なコミュニケーションはむしろ増えた
- ・**デジタルガバナンスコード**を意識した**Xを可能にするデジタル Readyを達成する**の視点でのDX取組になりつつある

【DXへの取組み時を振り返って】

- ・改めて「**業務におけるAIの活用とリスク**」を視野に進めなければならないと感じた
- ・今後、業務にAI情報を判断基準とするため、情報漏洩やシステムの障害、業務作業者の安全面などの考慮
- ・懸念も含めて検討・計画・設計・実装・検証を慎重に進めるべきもので、AIの導入において、**活用・技術開発⇔懸念・リスクの双方を視野**に入れて実践していきたいと考える

【これからDXに取組もうとする企業へのメッセージ】

- ・「**使いたくなる仕掛け**」の方が、企業のシステム導入において配慮すべききっかけとなると感じる
- ・様々な分野や業態でDXに取組むことにおいて、画一的な導入による効果は期待すべきではないと感じる
- ・今後既存業務の強さを活かし今後の企業ビジョンを明確化するとともに、経営状況や構成員の年齢構成など様々な企業特性を考慮反映できる「**効率化や生産性向上、利益追求**」だけでなく、「**人中心のWell-Being**」な**事業環境となるべく柔軟で改善を前提としたDX導入**を検討する必要があると感じる